



### 本号の内容

□冬に語る  
・CSN活動の後継者育成にむけて

□事業報告  
・共創プラットフォーム事業化研究会スタート

□活動報告  
・第18回CSNサロン報告 エビの陸上養殖

□トピックス  
・「インフラ・まちづくりとシビルNPO—補完から主役の一人へ—」出版される

□コラム  
・CAFE0-32（東南アジア技術者交流大会）とミヤンマー街歩き最新詳細事情

□CSNのうごき

## □ 冬に語る □

# CSN 活動の後継者育成にむけて

## ことしこそ、そのスタートを！

副代表理事 宇佐 洋二

新年あけましておめでとうございます

本年もよろしくご指導のほどお願いいたします。

今年は未年、今までの未年の出来事を思い返してみましよう。

### 2003年

SARS 集団発生、個人情報保護法が成立  
(流行歌：地上の星)

### 1991年

雲仙・普賢岳で火砕流、湾岸戦争勃発  
(流行歌：愛は勝つ)



### 1979年

三菱銀行猟銃人質事件、ウォークマン発売  
(流行歌：別れても好きな人)

### 1967年

日航世界一周線運航開始、「オールナイトフック」放送開始  
(流行歌：君こそわが命)

### 1955年

森永ヒ素ミルク事件、トヨタがクラウン発売  
(流行歌：月がとっても青いから)

### 1943年

学徒出陣、東京都が誕生  
(流行歌：若鷺の歌)

### 1931年

満州事変、三色信号機が登場  
(流行歌：丘を越えて)

### 1919年

カルピス発売、アメリカで禁酒法可決  
(流行歌：東京節)

このように、未年には災害や、事件、戦争に係る出来事等が多く、明るい話題はあまり多くないようです。

今年は災害や事件、ましてや戦争とはかかわらないような一年であることを願いたいと思います。

さて、昨年は本NPOが設立10周年を迎え、盛大な記念行事を行ったところです。

私も初心に帰り設立当初の思いのなかで「できたこと」、「できなかったこと」、「まだ途中段階であること」「今後やるべきこと」等を整理し、10年経た実績・経験をもとに、高齢化したメンバーで今後どのような活動をすべきかを再確認する必要があると「季刊誌第7号：設立10周年記念号」に書かせてもらいました。

もう一度整理すると

#### 《できなかったこと》

会員が集まれる場所（都内に貸室等）が無かったことで、組織的な活動や意思の疎通に欠ける場合があったが、費用等の問題で実現できなかった。

#### 《まだ途中段階であること》

企業間の技術と情報の交流については、CNCP による「共創プラットフォーム事業化研究会」（ゼネコン 4 社で発足し本 NPO が推進担当）、が始まったところでありその成果が期待される。

#### 《今後やるべきこと》

大学等の研究機関との連携については NPO の発足母体である中央大学卒業生を考えると、より強固な連携強化が必要となってくると思われる。

連携の結果、より多くの OB が加入することで高齢化・後継者難の一助となることも期待できる。

出来なかったことは経済的な事情でできなかったが、インターネット等の活用により迅速な情報交換が可能であると考えられる。

課題は「今後やるべきこと」で、大学等の研究機関との連携については中央大学との具体的な連携（共同研究等）と、

OB 等との人的な交流(定期的な交流の場を設ける)により NPO に興味を持ってもらい、より多くの方(50代の方)が NPO に参加してみたいと思うような活動が後継者対策にもなるのではないのでしょうか？

2020年の東京オリンピックまであと5年、何とか活気があり、やりがいのある活動ができれば良いと思います。

そのスタートの年にしようではありませんか。



#### 《追伸》

我々の NPO の今後（継続性）を考えたときに現有勢力では精々あと5年で力を失っていくと思われる。

少なくとも 50~60 歳前半の人材確保が急務であると思われます（次世代を担う会員）。

次世代の会員には現在の活動すべてを必ずしも継承を望むものではありません、その時勢に合った取り組みを探してもらい創り込んでもらえれば結構です。

我々の思いは、数少ない土木関連の事業型 NPO をうまく利用してもらいたいという思いです。

広く門戸を開き NPO に来てくれることを望んでいても期待はできない状況下、先ずは、我々の身近な後輩・知人の中から、これはと思う人材を紹介していただき、ターゲットを絞り込み個別に入会を促したいと思っています。

当然、現役で仕事をされているでしょうから現在の我々の活動を主体的には動けないことは承知の上で、次世代に受け継がれたとき準備をする

期間だと思っていただければ十分です。

#### 《本 NPO に入会する意義・メリット》

我々は 10 年間で数々の実績を作りました。これらの活動から以下のような意義・メリットを受けられます。

1. 社会貢献活動に寄与できる
2. サードセクターとしての情報が入手できる
3. 経験と技術を活かした活動領域の拡大
4. 産学官及び NPO 間の連携ができる
5. 社会に対し政策提言ができる
6. NPO 独自の事業立上げ・運営に参画できる
7. 生きがいを得ることができる

以上が入会の意義・メリットです

我々は、頭を下げて入会してくださいという気持ちではなく、良かったら入会しませんか？

あなたはリタイアした後の人生設計をどのように考えていますか？

この様な考えで 15 名程度の次世代会員の勧誘案内を作成したいと思います。

後輩・知人の紹介を期待しております。

## 事業報告

# 埋蔵技術の事業化にむけて

## CSNが運営担当責任者

## 共創プラットフォーム事業化研究会スタート

当NPOが加盟するNPO法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP)では建設産業分野では初のNPOをプラットフォームとした建設産業を対象にした新規事業の創設を目指す「共創プラットフォーム事業化研究会」を立ち上げた。

ゼネコンや建設コンサルタントの未活用技術や特許などを調査し、技術や人材をNPOならではの立場で戦略的に事業として生かす方策を研究する。本研究会は従来の産官学体制では発足が難しい研究会であり、サードセクターとしてのNPOだからこそ実現したものである。

本研究会は本研究会の提案者であるNPO法人シビルサポートネットワークを担当責任者として運営する。参加企業は安藤ハザマ、奥村組、熊谷組、西松建設、の4社の共同研究組織となる。研究指導は中央大学ビジネススクール露木教授に受ける。

研究内容は①技術事業化プロセス・手法を理解するための研究会の開催 ②参加各社での具体的な未利用技術の調査・検討 ③フィジビリティスタディ(事業に向けた各調査結果の取りまとめ) ④事業化計画書の策定(新規事業の企画・提案)の4点。

期間は2014年10月～2015年7月(第1フェーズ)、2015年8月～2016年7月(第2フェーズ)の計2カ年。月に1回2時間程度の研究会を開催し、技術、情報、研究成果を共有。

参加企業には積極的な新規事業の創出を展開してもらおう。一企業単位だけでなく、複数の企業を交えることによる相乗効果を主とする新規事業提案が大いに期待される。

すでに、10月～12月に3回の研究会が開催されて本研究会を推進する上で最も重要な①「場の共創」なる理論の学習、②参加企業の現状と課題を掘り下げるSWOT分析、③社会の変化と顧客ニーズ、を取り上げての研究活動を進めてきた。

参加各社とも従来にない研究会活動に積極的な活動姿勢がみられる。

### 2014.08.06 建設通信新聞(第1面)

特定非営利活動法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP、山本卓朗代表理事)は、ゼネコン各社で開発したものの使われていない「埋蔵技術」の事業化を提案する「共創プラットフォーム事業化研究会」を立ち上げる。研究会会員を募集し、参加した企業から埋蔵技術の提供を受け、研究会として事業化を提案。最終的には法人を立ち上げ事業化にまでこぎ着けることを視野に入れている。9月2日に東京都千代田区のCNCP事務所会議室で参加者募集の説明会を開く。

研究会は、過去に技術開発したものの事業化には至らなかった技術や、一度使っただけで活用されていない技術など眠っている技術に参加企業から提供を受ける。その技術に対し、研究会が事業化の課題や事業化へのステップ、市場、資金の支援など事業化の可能性を検討。一定の可能性が見込まれば、商業化に向けたステップや営業目標、事業化の際の組織、想定キャッシュフロー計算書などを作成する。

提供した企業が事業化に参加しなくても、技術を提供した企業以外の研究会会員企業で事業化できるようにもする。事業化までの調査・計画策定までを研究会で担い、最終的に参加企業が法人を立ち上げ、事業化する段階には研究会は関与しない。

研究会が事業化を検討することで、個別組織の事情にかかわらず検討できるほか、意思決定が迅速で、大学や学会との連携も期待できる。

9月の説明会への参加申し込みは、研究会事務局・電子メール(npo.csn@bridge.ocn.ne.jp)で受け付ける。研究会参加費用は、各フェーズごとに1社36万円。企業規模などは問わない。

説明会後、月1回程度、会合を開き、「フェーズI」として2015年7月ごろまでに未活用技術や事業化ステップの調査・検討を進め、「フェーズII」として同年8月から16年7月までに事業化可能性調査を実施する見込み。

## CNCP、研究会を立ち上げ

### 埋蔵技術を事業化

特定非営利活動法人シビルNPO連携プラットフォーム(CNCP、山本卓朗代表理事)は、ゼネコン各社で開発したものの使われていない「埋蔵技術」の事業化を提案する「共創プラットフォーム事業化研究会」を立ち上げる。研究会会員を募集し、参加した企業から埋蔵技術の提供を受け、研究会として事業化を提案。最終的には法人を立ち上げ事業化にまでこぎ着けることを視野に入れている。9月2日に東京都千代田区のCNCP事務所会議室で参加者募集の説明会を開く。

第18回 CSN サロン報告



## 安全・持続可能 エビの陸上養殖を語る

### 第18回 CSN サロン

日時：2015年1月10日 15時～17時  
会場：オリンピック記念青少年総合センター  
104 会議室  
演題：バナメイエビの陸上養殖技術  
講師：株式会社アイ・エム・ティー  
専務取締役技術総括  
野原 節雄氏  
参加者：13名  
\* 17時より新年会（レストラン「とき」）

食卓をはなやかに飾るエビは、わが国に毎年25万トン以上も輸入されている。

しかし、その産地東南アジア諸国で深刻な環境問題（餌の食べ残し・排泄物による海洋汚染、マングローブ林の伐採など）を引き起こしている。

また、2012年に発生した新たな疾病（EMS）の蔓延により、生産量は減少し、不安定な産業となりつつあるという。

今回の講師に、環境への影響を最小化し、安全で持続可能な養殖エビの生産システムを実用化し

た野原節雄氏をお迎えした。

このエビは、妙高高原の体育館のような工場生産されている。まだ生産量が少ないため市場にあまり出回ってはいないが、安全でおいしい食材を追求しているプロの料理人に人気があり、市販物よりかなり割高であるがこれしか使わないといシェフもいるそうだ。

また、昨年8月19日放送のTV東京「ガイアの夜明け」でも、「モンゴルの大草原で”プリプリのエビ”を作る！」と題して大きく報道された。

#### 【プロフィール】

東京都出身、育英工業高等専門学校電気工学科卒業、(株)間組技術研究所で陸上養殖に関する研究、2002年より現職に就き生物系特定産業技術研究支援センターの委託研究により高密度閉鎖循環式エビ生産システムの開発、2009年産学官連携功労者として農林水産大臣賞を受ける。

著書、「応用微細藻類学・食料からエネルギーまで」（共著）、「陸上養殖・事業化、流通に向けた販売戦略、管理技術、飼育実例」（共著）

#### 《講演内容》

間組では30年間建築の電気設備の設計をしていた。最後の作品は青山のホンダビル、そのあとインテリジェントビルの研究で研究職に就いた。トロン電脳ビルのコンセプトが新しすぎて日本では建設できなかった。



そのあと、社団法人日本水産会が<sup>1</sup>HACCP（ハセップ）を作るときに建設会社から委員を出してくれと言われ、技術委員会の委員を3年間行ったのが水産加工との出会いで、日本版ハセップつくりのためにヨーロッパ・アメリカを1ヶ月くらい視察したときに、ヨーロッパの陸上養殖の技術の高さを知った。

日本は水産王国で周りを海に囲まれ、海場での養殖は行っていたが、陸上養殖はニーズが無かったのかな？そこで、日本でも陸上養殖を行ってみたいと思ったのが経緯。

アイ・エム・ティーは、1997 年設立、北大の先生がヨーロッパ・アメリカの陸上養殖技術を紹介する目的で作った。そこにハザマと日本工営が出資し 2002 年から関連会社として経営を行って来ている。☆養殖業は年率 8%の伸びがある成長産業である(IT 産業と同じ成長率)。

☆養殖産業の中でもエビは 13%を占めている。

☆人口が増えている中、動物性蛋白質の需要が高くなっているが牛肉 1kg を生産するのに穀物 11 kg を要する最も少ない鶏肉でも肉 1kg の生産に 4 kg を要するため、穀物の奪い合いになる。当然水も必要となる。

☆世界的に特に先進国では肉を回避する傾向がある、低開発国でも富裕層が魚食を好みブームになっている(ポリビアでは国が魚食を推奨している)。

☆畜産業では水を多量に消費するが、養殖では必要としないのでアフリカの内陸部からも陸上養殖のオファーが来る。これからの食糧生産は水を大事に使う手法でなければならない。

☆海上養殖はマグロ・ヒラメ等を“いけす”を使われているが設備等でイニシャルコストがかかる。

☆養殖するものは成長が早いものが良い(1 年くらい)、チョウザメは 8 年もかかり難しい。

☆肥料効果が良いものの製品 1kg を得るのに餌としての動物性蛋白質は 2 kg まで、マグロは 1kg を得るのに 15 kg を要する。

☆安全な稚魚が入手できること、エネルギーコストがかかりすぎないこと(加温にエネルギーを要す)。

☆このような条件下我々はエビを最適と判断した。現在 25 万 t/年消費中 90%が輸入である。

☆本当は車エビを養殖するのが良いのだが(高く売れる)海水でなければならない、砂の中に潜るため生産密度が低くなる、病気がある。我々が「バナメイエビ」を養殖するのは、海水・淡水で養殖が可能で

4 か月で出荷でき、水流があると泳ぐ性質があり養殖密度が高い(立体的に養殖できる)ため。

☆システム・健康管理・餌に特許を持っている。

☆妙高で稼働中のプラントの技術的な説明

☆事業推進の問題点として、当初は焼却施設の余熱利用であったが使えなくなり、天然ガスを使い加温しているがコストが嵩む。販売先の確保が当初は難しかったが、首都圏のレストランで評判になりリピータのリクエストで定番メニューに載っているが物流コストが嵩む。

☆国を挙げての陸上養殖を推進する体制ができていない。

安全安心な養殖魚への市場評価ができていない。

<sup>1</sup> ハセップ：食品を製造する際に工程上の危害を起こす要因(ハザード; Hazard)を分析しそれを最も効率よく管理できる部分(CCP; 必須管理点)を連続的に管理して安全を確保する管理手法

以上



講師：野原節雄氏

□ トピックス □

## 土木学会 創立 100 周年記念出版

# 「インフラ・まちづくりとシビル NPO —補完から主役の一人へ—」



これからの土木・インフラの維持管理や整備、あるいはまちづくりにおいて、新しい公共や共助社会の概念とその担い手の NPO の活動は、重要な位置を占めると考えられている。

本書は、土木分野におけるこの様な考え方やそれに基づく具体的な担い方を整理するとともに、個別分野における具体的な活動事例を紹介している。

これらは、現在 NPO に携わっている方々は勿論、今後携われる可能性がある方、シニア技術者は必読書であり、中堅～若手の現役真っ只中の方々にもこれからの生き方を考えていく上で、多くの情報や示唆を提供できる内容となっている。

本書は土木学会創立 100 周年事業の一環として、

建設系 NPO 連絡協議会において編集委員会が組織されて出版されたものである。

当 NPO の辻田代表は、本書の編集委員であると同時に、「第 1 章社会における問題解決の潮流 1.1 社会における問題解決の動向 1.2 非営利活動の担い方と担い手」を執筆している。

できれば、本書は CSN のメンバー全員に読んでいただき、これからの NPO 活動に生かして欲しいと願っている。

購読希望者は CSN 事務局までご一報ください。定価は 2000 円（税別）です。土木学会でも購入が出来ます。

## 主な内容

### 第 1 章 社会における課題解決の潮流

- 1.1 社会における課題解決の動向      1.2 非営利活動の担い方と担い手

### 第 2 章 土木分野の非営利活動の展望—社会を変えるシビル NPO に向けて

- 2.1 土木分野における意味と重要性      2.2 土木分野における展開の概況      2.3 土木分野の事業型活動の担い方      2.4 大震災からの復興に向けての役割      2.5 海外における動向

### 第 3 章 土木の各分野における非営利活動／シビル NPO の具体の展開事例

- 3.1 交通施設の維持管理      3.2 河川・水分野      3.3 まちづくり分野      3.4 防災・減災分野  
3.5 環境分野      3.6 シビル NPO 活動の国際化      3.7 その他の分野

### 第 4 章 土木分野の NPO 活動の更なる活性化に向けて

- 4.1 土木分野における NPO の状況と実態      4.2 NPO 法人の中間支援組織      4.3 土木分野の中間支援組織  
4.4 シビル NPO、その「達成感」と「存在感」のために

### 第 5 章 これからの土木分野における非営利活動、特にシビル NPO の更なる展開に向けて

## 執筆者

有岡正樹/社会基盤イノベーション研究会理事長、CNCP 常務理事

牛島栄/青木あすなる建設機技術研究所長

木村亮/京都大学工学研究科社会基盤工学専攻教授

駒田智久/ワイス パスィム、CNCP 理事

島谷幸宏/九州大学大学院工学研究院教授

高橋真理子/水・環境ネット東北専務理事、CNCP 理事

辻田満/シビルサポートネットワーク代表理事、CNCP 理事

野村吉春/州都広島を実現する会事務局長、CNCP 理事

三上靖彦/茨城の暮らしと景観を考える会代表理事、CNCP 理事

皆川勝/東京都市大学工学部都市工学科教授、CNCP 常務理事

目黒公郎/東京大学教授、生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター長

山本有孝/日本上下水道設計㈱

□ コラム □

## CAFEO-32（東南アジア技術者交流大会）と ミャンマー街歩き最新詳細事情

出崎 太郎

### 12 回目の Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations

今年も CAFEO (Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations) に参加しました。

2014 年 11 月 10 日から 13 日まで ミャンマー連邦共和国 (Republic of the Union Myanmar) で行われました。今回は 32 回目にあたり、私が参加するようになってから 12 回目です。当初は首都ネーピードー (Nay Pyi Taw) で予定されていましたが、途中で前の首都ヤンゴン (Yangon) での開催に変更になりました。

CAFEO は、非政府系組織による東南アジア技術者の交流大会で、構成 10 カ国が毎年持ち回りで開催しています。日本は、オブザーバーとして参加していますが、他にオーストラリア、韓国、香港、豪、インドなど常連国からの参加もありました。

私は日本技術士会の一員として、初参加の若手技術者（技術士補、修習技術者等）3 名、継続的に参加している技術士等 7 名の計 10 名とともに参加しました。参加者は、現地集合・現地解散です。日本からヤンゴンへは全日空による直行便がありますが、私は予算重視でクアラルンプール（マレーシア）経由のマレーシア航空で、8 日夜成田発 10 日 11：15 ヤンゴン着の便を選択しました。クアラルンプールで約 6 時間の乗り継ぎ時間がありました。

### ミャンマー民主化までの道のり

ミャンマーは、日本の約 1.8 倍の面積に 6,250 万人が住む共和制の国で、現在の元首はテイン・セイン大統領です。東南アジアの最も西側に位置し、日本との時差は 2 時間半遅れ。インド、バングラデシュ、ネパール、中国、ラオス、タイと国境を接しています。最大民族のビルマ族が約 70% を占め、100 を超える民族が国内に居住しているといわれています。それ故、地域ごとにそれぞれ特色ある民族衣装が伝えられ、独自の文化が育まれています。宗教は、国民の 85% が仏教徒ということで、何か日本人にとってホッとするとところす。

1885 年から始まるイギリス植民地時代に日本軍が進出し（1941 年）、第二次大戦後ビルマ連邦共和国として独立しますが、軍事クーデターを経て社会主義化が始まります。1988 年 学生らによる反政府デモから民主化運動へと発展しますが、国軍による軍政が敷かれ、翌年アウンサンスーチー氏の自宅軟禁が始まります。1997 年 ASEAN (東南アジア諸国連合) が、欧米諸国の反対を押し切ってミャンマーの加盟を承認し、民主化の進展も期待されましたが、一進一退が続き、反政府デモも頻発します。2007 年には、その取材中に日本人ジャーナリストが治安部隊に射殺されるという事件も起きました。

2011 年 現在の大統領が就任してからは民主化が進行しつつあります。2012 年 アメリカが

対ミャンマー経済制裁を停止し、オバマ大統領が訪問、去年は ティン・セイン大統領が訪米しています。

ヤンゴンには、軍政により 2006 年 10 月にネーピードーに遷都されるまでこの国の首都でした。ミャンマー最大の都市で、人口約 514 万人、この国の経済の中心地であり、昨今の発展にチャンスを探り求めて 800 人を越える在留邦人が居住しているとのこと。

私は 10 年前（2004 年）に CAFEO 第 22 回大会参加で初めてヤンゴンを訪れたのですが、開催 2 ヶ月前に首相解任という軍政政変の真只中で、参加登録のメールは届いていたものの、主催者を通じてのホテル予約はできていなかったという混乱状態でした。

### 円安直撃、宿泊料金急騰す

私がヤンゴン入りしたのは、9 日（日）11 時過ぎ、大会開催日の前日でした。日曜日にもかかわらず、空港には CAFEO スタッフが迎えに出ていました。会場のホテルへの送迎のためです。いつもなら、CAFEO 期間中は開催ホテルに宿泊することにしているのですが、今回は別のホテルを予約していました。

大会直前に始まった急激な円安で、ただでも高額な宿泊料金が日増しに高騰して行きました。当初は一泊 20,000 円ぐらいであったものが、直前では 30,000 円近くになっていました。大会開催ホテルはその国の最高級ホテルを使用することが多いのですが、今回は高すぎます。経費節約のため出国直前にインターネットで会場近くのホテルを探し、7,500 円程度で見つけました。朝食付きで 3 泊の予約をしていました。

この時間帯の到着は他にいなかったようで、車に案内されたのは私一人でした。車に乗る前にマネーチェンジをしました。100 米ドル（USD）を現地通貨チャット（K:Kyat）に替えたのです。ミャンマーでは米ドルが通用するが日本円は交換が困難だと聞いていたので、日本にいるうちに所持金のほとんどを USD に替えてきました。（日本市中で 116.6 円/USD）ここで 100,000 を超えるチャットと交換できました。（5,000Kyat×20 枚+α）1K が約 0.1 円感覚です。

CAFEO スタッフによる送迎は、会場のホテルまでが原則なのですが、頼み込んで自分のホテルまで連れてってもらいました。おかげで、13 時過ぎにはチェックインできました。



ホテルから



通りのもの売り



僧侶をめざす子供たち

### タクシーにご注意

大会の公式行事は翌日からなので、この後は街へ出かけることにしました。実は大会行事終了後からこの国を出国するまでの間の過ごし方について、現地旅行会社の人（日本人）に相談することになっていたのです。

電話で連絡をとり、16 時に待ち合わせしました。すこしの間休憩し、冷蔵庫で冷やした飲料水ペットボトル 1 本をかばんに入れて 15 時ころホテルを出ました。どこのホテルも 1 日 2 本の水ペットボトルが無料で提供されます。私は着いたらすぐ冷蔵庫で冷やすようにしています。ホテル従業員に待ち合わせ場所を告げ、タクシーを呼んで値段の交渉をしてもらいました。4 USD とのことだっ

が、30分程度乗車して降りるときに要求されたのは、5,000K+1USD。よくないタクシードライバーだったようです。

お会いしたのは知人が紹介してくれた、現地の旅行会社オーナーです。13日からマンダレーに移動して2泊し15日にヤンゴンから出国する行程が成立するかの検討をお願いしました。お礼に私の住んでいる千葉県から持参のピーナツ菓子を渡したらとても喜んでくれました。

### ヤンゴン街歩きは、まずサンダルから

その後少し街を歩いて見ることにしました。まず、サンダルを探しました。この国ではどこでもサンダル履きでOKです。そりに近いタイプを4,500Kで買いました。メイドインタイの高級品でした。歩いているうちに、「和 nagomi」と日本語で書かれたマッサージ店の看板が目に入りました。Japanese Medical Massageとあります。料金が、30分3,000Kととても安かったので飛び込んでみました。受付の女性から予約しているかと日本語で問われたので、ノーと応えたら10分くらい待つけどよいかと言います。オーケーと答えて60分の全身マッサージを頼みました。しばらくすると45歳くらいの店長らしき人が現れたので、日本語を話せますか?と聞いたら、日本人です、と答えました。

まもなく若い男性が現れてマッサージ用の簡易ベッドに案内されました。衣服を着た上からのマッサージです。特に特徴はありません。安いから良しとしましょう。

### ヤンゴンは、二輪車乗り入れ禁止。でも、足元ご用心

18:30になっていて、辺りが暗くなりつつありました。まだ人通りは多く、道端に屋台が出ていました。ホテルまでの帰りをどうするか、考えながら市内地図で道順を確かめました。歩いて1時間半というところか。とりあえずその方向に向かって歩きはじめました。バスの車掌が大きな声で行き先を連呼し、乗客を集めています。

歩いているうちに暗くなり、人通りも少なくなりました。対向車のライトが眩しいのと、埃っぽさが気になってきました。他の東南アジアの都市との違いがあります。ヤンゴンでは乗り入れが禁止されているので、2輪車が走っていないのです。時々立ち止まって道を確認めます。交差点がチェックポイントになります。ホテルまで歩いて帰ることに決めました。歩道が設けられている部分もあるのですが、多くはその下に下水の側溝が入っていて、ところどころ蓋が壊れています。足元を注意していないとそれにはまってしまう。

### 夕食は、ビール大瓶2本・野菜たっぷり辛そば、ライス、肉ミックス野菜炒め。

#### これで、¥1,000円!?

だいぶ喉が渇いてきました。さきほどのマッサージの効果は帳消しです。途中のコンビニ?でお酒を売っているのが見えました。時間が過ぎてきたので、ホテルで食事をすることにして、お酒を買うことにしました。ビール2缶で1800K、ウィスキーポケット瓶700K おつまみ少々。

ホテル近くに来て、地元の食堂が開いていました。20時半近くになっていました。ビール缶を持ったまま入りました。まずビールを注文し、出された大瓶を飲みながら食事の品定めをしました。軽くを念頭にスープヌードルを頼みました。辛そば1,600K、野菜たっぷりです。ライスを追加注文30K。ごはんが安い。追加で、肉ミックスの野菜炒め4,000K、ビールを追加注文。合計でも10,000Kを切る夕食代でした。

### 市場をのぞくと・・・バナナ一房 500K (50 円)

AFEO 開始当日の公式行事は、早朝からのゴルフ大会参加者やボーリング大会に参加する若い技術者を除いては、13:00 からの Technical Seminar からのスタートになります。

その前に、会場で参加登録を済ませればよい。ホテルで朝食を済ましたあと、地元のマーケットを覗いてみることにしました。お目当ては果物や食材の市場、近くにある市場をホテルで教えてもらって出かけました。

市場は昨夜の帰りに通った通りの横道にありました。道の両側に食材が並べられています。規模がさほど大きくないので、量はあまり多くありませんが、近くで獲れたいろいろなものが並べられているという感じです。バナナ 1 房 7 本ついて 500K。大好きなトウモロコシとサツマイモをふかして売っていたので買いました。どちらも 1 本 200K でした。売っていたおばさんが良さそうなものを選んでくれたのですが、部屋に戻って食べてみると味はいまいち。日本の品種改良の優秀さを思いました。



野菜・果物



魚



トウモロコシとサツマイモ

### おや、エントリーシートに名前がない

ホテルに戻り、スーツに着替えて CAFEO 会場のホテルに向かいました。午前中に登録を済ませればよいので、歩いてみることにしました。炎天下 25 分ほどで着きました。参加登録受付会場へ向かいます。大会参加は事前登録制となっており、会場ではその確認と参加費（ASEAN メンバー国以外からの一般参加は 200 米ドル）の支払いで手続きが完了します。

私の名前はありませんでした。日本からの登録申請メール送付が遅かったのと、それに対する返事がなかったのが、さもありなんというところ。200 USD 支払って入場パスを作成してもらいました。

### ことしのテーマ「Integrated Solutions for Energy, Transport and Infrastructure」

今年の CAFEO-32 のテーマは、“Integrated Solutions for Energy, Transport and Infrastructure”です。初日は 13:00 からの Technical Seminar のあと 18:30 から Welcoming Reception。テクニカルセミナーでは、Disaster Preparedness, Mitigation and Management Session に参加し、各国の自然災害の発生状況と対策の取組みについての発表を聞きました。

### 歓迎レセプションはアルコール抜き

歓迎レセプションへは早めに向かい、日本からの参加者で同じテーブルについたのですが、始まったのは 1 時間遅れの 19 時半になっていました。初参加の若手技術者とはこの場が初対面です。テーブルにはコーラとオレンジジュース、水で、アルコール飲料はありません。主催者側から歓迎のスピーチがあり、ミャンマーの民族舞踊がありました。食事が出されましたがこれまでと比べてやや盛り上がり欠けたものでした。

予定通り 21 時頃には終了しました。帰りも宿泊しているホテルまで歩いて戻りました。途中で



日本からの参加者



インドネシアの友人と



踊り子たちと

地元ビール2缶 170Kyat でした。ホテルのロビーでインターネットが使用できるようになっているので、Yahoo Japan 経由でこのホテルをもう1泊延長し、13日まで滞在することにしました。フロントで直接延泊を申し入れることもできたと思いますが現金節約のためです。

### この日、首都ネービードーでは ASEAN 首脳会議

2日目は9:00からのOpening Ceremonyに間に合わせて大会会場に出向きました。例年ですと、首相クラスを迎えてオープニングが行われるのですが、今回は北京で行われたAPECに引き続いて首都ネービードーでASEANの首脳が集められたために、CAFEOには出席できなくなったという事情がありました。日本から安倍首相もネービードーを訪れていました。ヤンゴンへの大会会場の変更もそのあおりです。

ティータイムをはさんで、若い人たちのプログラムYEAFFEOのミーティングやテクニカルセミナーが行われ、最後にASEAN各国からのこの1年間のカントリーレポートが行われて締めくくられました。



オープニング セレモニー



テクニカルセミナー



YEAFFEO ミーティング

私のCAFEO以降の予定について、なかなか具体的になりません。そこでCAFEO参入の旅行者に2泊を前提にマンダレー行きの案を検討してもらうことにしました。出発日には、テクニカルツアーが予定されているので、なるべく遅い便での航空機を選ぶようにお願いしました。ホテルへ戻ると旅行者からメッセージが入っていました。航空機のチケットが確保できたとの連絡です。マンダレーのホテルを予約しました。入国当日お会いした日本人旅行者推薦の比較的新しいホテルです。予約は昨日と同じくホテルのパソコンを使用しインターネットでYahoo Japan 経由です。1泊30USDで2泊。

### ドレスコードはフォーマル、わたしは袴できめた

3日目は、テクニカルセミナーのなかで日本の参加者から、今回の安倍首相のミャンマー訪問のエピソードを交え、日本のエネルギー政策の原子力発電を含めたベストミックスについての議論が紹介されました。

夜は、18:00からClosing CeremonyとPerformance of delegatesが行われました。主催者からの招待状のDress CodeはFormal (or) National Dressとなっています。日本からの参加者はなるべく和服を着用するようにしています。久しぶりに女性が参加しましたので、彼女の浴衣姿が皆さんの関心を呼んでいました。

私は今回、袴を持参しました。各国参加者同士で写真を取り合います。この場で CAFEO32 への参加証が届けられました。司会者から呼び出しを受けて国別で行われるステージ上での日本のパフォーマンスは、参加者による空手の試し割りと AKB48 の歌を披露しました。



日本の若い技術者



一緒に記念撮影



来年の開催国マレーシア

翌日の最終日は、テクニカルツアーが企画されていて、3つの視察コースが提案されていました。旅行業者に頼んでいたマンダレーへの航空券は、15:00 発になっていました。最も早く戻るコースでも 14:00 着。この時点でテクニカルツアーへの参加を断念しました。ヤンゴン～マンダレー航空機手配は往復で 230 USD。現金で要求されました。

### いざ、マンダレーへ。

テクニカルツアー参加を取り止めたので、マンダレー行き当日はのんびりできました。ゆっくり起きて荷物をまとめ、時間ぎりぎりに正午ホテルをチェックアウトしました。ヤンゴンへの戻りはミャンマー離国の当日になるので荷物は全て持ち歩き。ガイドブックでは、地方への航空事情は欠航や遅延がしばしば起こるので、離国当日の地方便乗り継ぎは避けるようにと記載されています。Kyat がなくなってきました。チェックアウト時にホテルで 10 USD をマネーチェンジ。10,000K。ホテルから国内空港までタクシー代 6,000Kyat。この時点で所持米ドルは、69 USD。20 D×2 枚と 10 D×2 枚と 1 D×9 枚。日本円はチェンジできません。闇で替えられるところもあると聞きましたが、CAFEO 会場の一流ホテルの両替商でも円は扱っていないと断られました。

国内空港に着いた。国内便の航空会社は数社ある。私のマンダレー行きは、air Bagan。搭乗手続きのため受付カウンターに向かうも誰もいない。聞けば、14:00 に来いと言う。まだ少し時間がある。マンダレーの空港から市内までのタクシー代が必要になる。30 USD だけ Kyat に替えておこう。20 D 札 1 枚と 10 D 札 1 枚の両替を頼んだ。

### 新札の方が交換率がいいって、どうこと？

窓口の女性が、札を詳しく調べて、両替できないので、別の札を出せと言う。札の角が 1mm ぐらい切れていて、もう 1 枚には汚れがあるという。むかついたのでいったんは断ってその場を離れたが、Kyat が無いと困るので思い直し、戻って別の米ドル札を出してみた。今度は Kyat に替えてくれた。

先の 30 ドルが使えないということはこれで 2 日間を過ごすことになるのか。替えてもらった Kyat 札はこんなに汚れているのに。

時間になったので、受付カウンターへ行った。張り紙がしてある。出発時間が 1 時間遅れて 16:00 になるという。さっそくだ。こんな調子だと帰国当日の帰りの便は大丈夫か？ 搭乗手続きを済ませて荷物を預けた。帰りのために、国際空港を下見しておこう。隣の建物で、歩いて行ける。マレーシア航空の搭乗カウンターはどこだ？

こちらにも両替所がある。先の米ドルを両替してみよう。まず、日本円をチェンジできないかとプレッシャーをかけ（たつもり）、それから米ドル札を取り出した。どうか？ 何も言わず替えてくれた。

びっくり。こんどは米ドル札が無くなったことが不安になった。この国では、100ドル、50ドル札の高額紙幣と20ドル・10ドル札と5ドル・1ドル札とでそれぞれ両替のレートが違う。高額紙幣の両替率が大きい。そして新札の方が価値が高いのである。



乗り込んだ航空機



航空機から



航空機からの夕日

マンダレー空港では、シェアタクシーの呼び込みが声を張り上げていた。4,000K で市内まで運んでくれるという。単独だと12,000K と聞いていたので助かる。タクシーには既に3人が乗っていた。荷物を運んだ呼び込みがチップを要求した。1,000K を渡すと喜んでた。

市内までは、45分というところか。既にあたりは暗くなっている。乗客がひとりふたり降り、最後に住所を告げてあった予約ホテルまで連れて行ってくれた。聞いていたように新しいホテル。中国系である。バウチャー（予約票）をプリントアウトできていなかったの、パソコンのメールで予約済み、支払い済みであることを確認してもらった。これで宿泊ホテルの心配はなくなった。

荷物を置いて食事に出かけた。時間が遅くなっていたので店が開いているかどうか心配だった。現金の手持ちは少ない。近くに手ごろな店はなさそうだ。結局カップヌードルとビール2缶、おつまみ少々を買い込んでホテルへ戻った。マンダレー街歩きは実質明日1日だけ。観るところを絞って効率的に動くしかない。マンダレーヒルと旧王宮とマハムニ・パヤー。

### マンダレーヒル、標高 236m。仏教の聖地。

マンダレーは、ほぼ国の中央に位置し、ミャンマー第2の都市。1857年から王都として建設され、1885年にイギリスに占領されるまで最後の王朝がおかれていた。現在残っている主な仏塔や寺院はその当時建設されたもの。

マンダレーヒルへは近くのマーケットから乗合ピックアップバスが出ていることが分かった。マーケットが開くのが遅いとのこと、ホテルでゆっくりの朝食。翌日の空港までの足、昨夜のシェアタクシーを予約してもらってから出かけた。マーケットの建物は閉まっていて路上での物売りだけだった。やや期待はずれ。

乗合ピックアップバスは、トラックの荷台に幌をかけ、荷台両側に向かい合わせの簡単なシートを設けたもの。行き先ごとに車掌が乗客を集めている。マンダレーヒルまで1,000K。後ろから乗り込むのだが、ステップの高低差が大きいので大変。幌から下がっている紐をつかんで乗り降りする。

マンダレーヒルは市内の小高い丘。丘全体が仏教の聖地となっている。標高 236m。7合目付近ま



参道の階段



日本人慰霊碑



マンダレーヒル

で車で行くこともできるが、私は下から参道を歩くことにした。参道は屋根がついており、途中途中に大きな仏像がある。日本から持ち込んだガイドブックの案内に従って進んだ。休憩所があったり、みやげ物も売られている。コーラ 1,000K。

日本人戦没者の慰霊碑もあった。頂上まで上るとテラスから周辺市街地が見渡せる。カメラを持っていることで 1,000K の支払いを要求された。あまり感動なし。下まで乗合ピックアップで下りた。

### 壮大な旧王宮は、1945 年日：英印戦闘で消失

旧王宮までは、バイクタクシーで移動。交渉で 1,500K。入場料が 10,000Kyat。敷地は一辺が約 3km の正方形で、高さ 8m の城壁に囲まれており、その外側に幅約 70m の堀が巡らされている。東西南北 4 本の橋が架けられているが、外国人観光客には東側の入り口だけが開放されている。

イギリス占領後、そこにあった財宝は本国へ持ち去られ、軍の施設として使用されていたが、1942 年に日本軍が占領した。そして、1945 年 3 月その奪回に動いた英印連合軍との戦闘で王宮は消失してしまった。現在敷地中央部分で建物の一部が再建されている。奥に宝物館も設けられているが、あまり見るべきものは無かった。



旧王宮



全景の模型



監視塔

### 4 代にわたる争奪戦、マナムニ・パヤーの青銅像

次にマナムニ・パヤーへ急いだ。

マナムニ・パヤーは、マンダレーで最も重要な仏塔として人々の信仰を集めている。大きな金箔が厚く貼り付けられた像の前に、女人禁制のために壇上に上るのを拒まれた女性たちが座してお祈りをしてきた。写真撮影は 1,000K。私は壇上に上がろうとしたが、金箔を購入していなかったためか、係員に登壇を制止された。

私はここで、あるものを探したがどこにあるか見当がつかない。本堂の周りを回ったがわからない。近くのみやげ売りの男性に尋ねたら、案内してくれるという。ずい分親切だなと思ってついて行ったら 16:00 で閉まってしまうという。そんな話は聞いていない。あと 5 分しかない。私がここで見たかったのは、遠くカンボジアから運んでこられたという青銅の像。人間やライオンなど 6 体のクメール様式の青銅像である。



お祈りをする女性たち



金箔の像



青銅像

これらの像はカンボジアで造られ、アンコールワットに置かれていたものを 1431 年にシャム（タイ）の軍勢が持ち去り、1564 年にはアユタヤ（タイ）に攻め込んだモン族軍がバゴー（ミャンマー）

へ奪い去った。1600年にヤカインの王がバゴを侵略してこの像を持ち去ったが、1784年に奪い返して現在の地に納められたとのことである。アンコール時代を築いたクメール文明以後のこの地域の盛衰を象徴する像なのである。急ぎ写真を撮っているうちに、前扉が閉め始められた。あぶなかった。あやういところで見逃すところだった。

### エーヤワディー河畔を散策

本日の予定は全て消化。あとは、マーケットでおみやげ探し。やはり建物は閉まっていて買い物ができない。これでは布のおみやげは買えない。手荷物がかさばらないようにおみやげはスカーフ等の布地に決めている。あとはナイトマーケットに期待しよう。では、それまでどうするか。そんなに遠くないはずのエーヤワディー川まで歩いてみよう。古代の都市は川沿いに発達する。

マーケットで買ったみかん大小4個を持って歩き始めた。途中で飾り付けられて停まっているトラックに出合った。トラックには(株)野村工建と書かれている。ひょっとして葬儀用の車両か？(株)野村工建さん！あなたのトラックはこちらでまだ活躍しているよ！

1時間近く歩いてやっと橋が見えてきた。ちょうど19:00、辺りはしっかり暗くなっている。広い道路を横断して川岸に近づいて見た。そこには広い幅の河がゆったりと横たわっていた。喉が渇いている。持っていたみかんの皮をむいた。とそこへ、電飾を装い、にぎやかに音楽を鳴らした車両が近づいてきた。川辺には船が停泊している。ひょっとして葬儀の車？

### 異国の葬儀に手を合わす

カメラで写真を撮ろうとしたら電池切れ。急ぎ携帯電話を構えたらとなりの若い男性が止めにはいった。そして船の方に向かって手を合わせるように促した。他の人たちも撮っているのに、と思いつつもここは素直に手を合わせた。やがて船は親族らしき人を乗せ、板3枚の栈橋をはずして岸を離れて行った。



みかん類



元日本の車輛



エーヤワディー川の夕日

偶然出合ったまれな経験を後に、ナイトマーケットへ戻った。見つけたチーフはコットン製で Made in China だとういう。首に巻くとタオルを巻いているようで、おみやげは断念した。

ホテルへ帰る途中、外国人で混んでいる地元のオープンレストランがあった。ミャンマー最後の夜。ここで夕食をとることにした。ビールを頼み、ガイドブックに載っているこの国の麺類モヒンガーかマンダレー・ミーシャイを聞いてみたがどちらも無いという。他の麺類を頼んで合計 3,000K。おばさんがビールの王冠の裏をはずして大当たりと喜んでくれた。200Kyat、20 円の大当たりである。

### やれやれ、ミャンマーよ、永久に幸あれ。

翌朝、頼んであったシェアタクシーが 10:20 発の航空便に合わせて 8:45 にホテルへ迎えにきた。15 分ほどの遅れでマンダレーの空港を飛び立ったときは、さすがにホッとした。これで予定通り帰れる。16:00 ヤンゴン発のマレーシア航空でクアラルンプールを経由し、無事帰国した。

## CSN のうごき

行事・イベント	実施日	参加者
事務局定例会議	11/3、12/1、 1/9	辻田、宇佐、高橋
シビル NPO 連携プラットフォーム運営会議	11/18、12/9、 1/13	辻田
共創プラットフォーム事業化研究会	11/27、12/25、 1/30	辻田、宇佐、高橋
CSN 役員懇談会	1/12	辻田、宇佐、出崎、舌間
第 18 回 CSN サロン	1/18	13 名
活動報告季刊誌第 8 号発行	1/31	

## CSN ことしの行事予定

第 18 回 CSN サロン	2015.1.12
第 12 期総会	2015.4.13
第 19 回 CSN サロン	2015.7.13
第 20 回 CSN サロン	2015.10.12
事務局定例会	毎月第 1 月曜日

## 編集後記

・ 1 月 12 日のサロンの講演「エビの陸上養殖」の野原講師によると、商品化されたエビの売れ行きが、発売当初はさっぱりだったそうである。

食品の安全をなによりも重視して開発した技術なのに、逆に“人工養殖魚”ということが消費者に怪しまれたとのこと。

商売の難しさを痛感させられる話である。

なお、このエビは、「妙高ゆきエビ」のブランドで販売され通信販売で購入できる。一度、ぜひお試しを！

・ 冬季号恒例の出崎さんの大作「CAFEO 参加報告」について、この 2 か月間私事多忙で時間がとれなくて、原稿を 2 列 2 段に組みかえられないまま掲載せざるをえなかった。他の誌面と体裁不統一になってしまい、すみません。

(事務局:高橋 肇)